

## サハラ砂漠の緑化、なる！（令和2年元旦の正夢）

2060年、パンパカパーン！ サハラの一部で壮大なサハラ緑化プロジェクトの完工式が挙行された。オアシスのように木陰が広がって、その一角に会場が設営されている。真正面には大画面のスクリーン、手前の壇上には主催者の、サハラを取り囲む国々の首相、国連、G7代表がずらり。日本の総理大臣も列席している。

青い空のもと、世界のほとんどの首脳が出席した完工式である。ヤシの木、ゴムの木、綿の木などが生い茂った木陰には、周辺住民はもとより、世界中から、世紀のイベントを一目見るために集まっている。代表してアルジェリアの首相が開会の宣言と式辞を述べ、その後、国連代表、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、北アメリカ、南アメリカの代表が祝辞を述べた。

そして日本の環境省と国土交通省が経過説明を行うことになった。日本語での説明だが、誰もが自国語に翻訳された内容をイヤホーンで聴き、視線はバックスクリーンに大写しにされた動画や図表、写真に注がれている。

動画は映し出していた。

〈樋門が開けられると太平洋をパイプラインで押し流されてきた水がドッとあふれ出た。サハラ砂漠に大水道が通った瞬間だ。砂漠が緑地に変身する第一歩はこうして始まった。初年、5年後、10年後……酷暑の中、住民が植林する姿とともに、赤茶けた大地が緑で覆われる様を映し出した〉

「きっかけは、日本の令和天皇の水に関する提言です。日本政府は、環境省、国土交通省が中心となって地球環境への貢献策として具体的に何が可能か、何が有意義かを研究しました。アフガニスタンの灌漑プロジェクトや、メコン河流域開発プロジェクト、オランダの干拓システムなどが大いに参考になりました。

その結果誕生したのが地球規模の水パイプライン・ネットワークプロジェクトです。目的はいくつかの柱から成り立っていますが、基本は、**多雨地域から乾燥地域への水移送**によって、今以上の温暖化を防止し、願わくは、上昇した温度を100年以前の恒常状態に戻すことにあります。

具体の説明はもはや不要と思いますが……、地表は湿潤地帯と乾燥地帯に分かれています。時として湿潤地帯を苦しめる集中豪雨の雨量を、パイプラインで水不足の乾燥地帯に移送して大地を緑化するという構想のプロジェクト、その結果はご覧の通り、サヘル地域一帯、さらに周辺サバンナ地域を含めて森林化されたことで、地球規模の冷温化が進みつつあるわけでありませう。

実施に当たっては、最初に周辺部のサバンナ地帯に水を送るパイプを敷設し、徐々に湿潤・緑化させて乾燥地帯を包囲し、砂漠の範囲を狭めていくという手順を踏みました。この1, 2世紀に進んだ地球規模の砂漠化を元に戻すところから始めたということになります。

どの地域も水問題を抱えていますので、他国に移送するなんて簡単に許してもらえません。ですから、原則、同一流域内での水循環です。ナイルに河口湖を作って真水を確保し、パイプラインで上流域に揚水するのです。それができない場合には、できるだけ近場から、しかも頻繁に洪水を起こす多雨地域から移送しています。河口湖ができない場合、過剰な水流を導流堤から直接パイプに取り入れ、海底を這って乾燥地に移送します。その技術を可能としたのは、世界の、知見豊かな水利技術者の献身的な努力のお陰です。

揚水に必要な発電機に用いるエネルギーは緑化によって生産されたバイオマスエネルギーです。

その結果、当初掲げた次の**目標**に目鼻がついて参りました。

一つ目、海面上昇をストップさせ、海洋に浮かぶ美しい**島嶼国の安定**を図り、他方で、北極圏、南極圏の**氷塊や凍土の氷解を防止**すること。

二つ目、熱帯、温帯地域に激増中の**豪雨禍を防止・軽減**すること。

三つ目、サハラ砂漠の緑化を図り、**森林造成によるCO2の固定化**を図ること。薪炭や果実からのオイルでもって人類が必要とする総エネルギーを賄うことで、石油、オイルシエルなどの埋蔵エネルギー資源依存からの脱却を図り、もってエネルギーの循環システムを構築し、**温暖化の完全ストップ**を図ること。

四つ目、乾燥地帯に水を移送し、自然発火による森林火災の延焼防止を図ること。

(ここで拍手が始まり、立ち上がって大声で、ブラボーを叫び、しばらくマイクの音が途絶えて説明が中断した)

**やればできたのにやらなかった**。それは世界的なコーディネーターが不在だったからです。そこを日本とオランダの技術者が組んで世界の技術者に呼びかけて技術的フィージビリティを確認していったのです。

令和10年、2029年が実質的なスタートの年でしたが、課題は、技術的なこと、各国間の利害調整のほか、資金調達的手法にありました。日本政府は、国連をはじめ各国に呼びかけながら、日本の政府開発援助スキーム（ODAの、技術協力及び資金協力）によって開始したのであります。

資金不足は当初からの課題でした。このことの解決は、地球平和をこいねがう、共に生きる諸国民の友情によって与えられました。祈りは通じ、真摯な努力が評価され、各国に共感の輪が広がることで資金提供をいただき、ついには**世界各国が参加する壮大なプロジェクト**に育っていったのです。多くが善意による市民の寄付と言われますが、ただ今、正確な金額をOECDの開発援助委員会（DAC）によって集計中と聞き及んでおります。

令和天皇の水の提言は、地球的課題を克服するという結果を招来しましたが、各位のご協力なしにはなし得ませんでした。ここに深甚なる感謝を申し上げます。そしてこの地球的项目への参加を通して、どの国も、世界平和を希求していること、人類皆兄弟

であることを自覚されました。これこそが、恒久の世界平和への道に繋がることを信じて止みません。

最後になりますが、日本の歴代天皇は、世界の平和と発展を祈って参りました。その実、世界は争いが絶えない歳月の歴史でもありました。その最たる原因は、領土の問題もあるでしょうが、資源、とりわけ石油を巡るものです。これからはその心配が不要となりました。人類は有り余るエネルギー資源を手に入れたのです。しかも樹木と大気を循環する無尽蔵の。この歓びを全地球人のものとし、平和のために団結しようではありませんか。以上が令和天皇のメッセージであります。ご清聴ありがとうございました

万雷の拍手。世界中にライブで放送され、深夜の日本の視聴率は40%を超えた。

海外特派員は会場の声を聴いて回っている。

「これでウェポンが不要になったね。大国のいがみ合いがなくなることを期待してるよ」

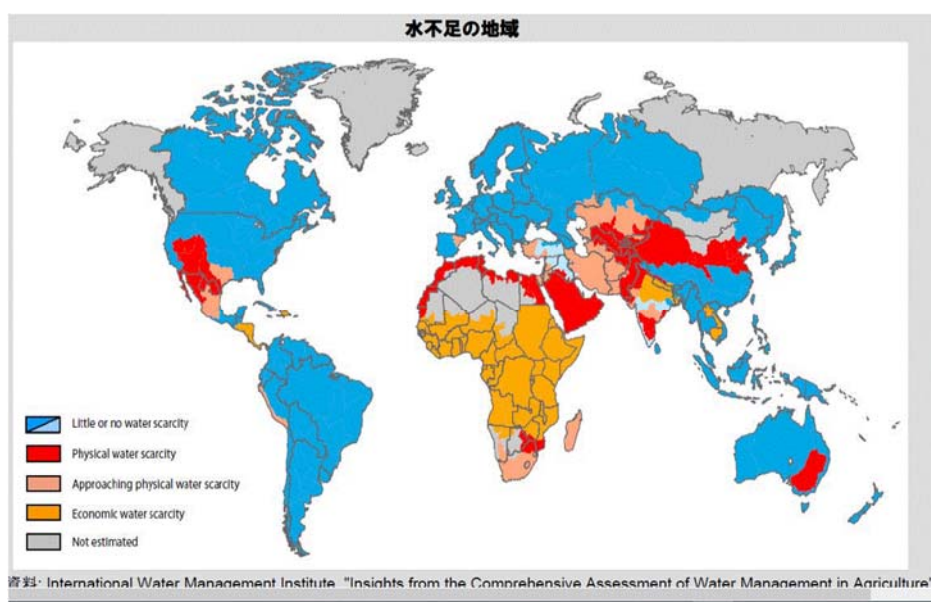
「後は、文明の衝突を避けてほしいことだな」

「みんな地球人となればすむことだったんだね」

「ジャパンか、見直した、というよりか、初めて知ったよ」

「アフリカが人口爆発の元凶地と言われますが……」

「豊かな大地に生まれ変わったんだから、負の循環をここで断ち切らないとね」



青：不足はない。赤～茶：不足（赤が最もひどい）灰色：計測していない

#### 参考：パームオイルについて

パームオイルの原料となるアブラヤシは、広大な面積の熱帯雨林を切り拓き、アブラヤシという単一外来種を植えることにより、さまざまな問題を引き起こしている。



マレーシアのアブラヤシ・プランテーション（地球・人間環境フォーラム提供）

例えば、プランテーション開発でオランウータンやトラ、ゾウなどが住みかを追われるなどによる**生物多様性の減少**である。また、熱帯林で暮らす先住民との土地をめぐる紛争や、プランテーションで働く労働者の劣悪な労働環境や児童労働などの**人権問題**もある。人身売買の温床になっているという指摘もある。

しかも、プランテーション開発のために泥炭湿地林の水を抜くと、それまで泥炭に蓄積されていた膨大な量の有機物の分解が一気に進み、**大量の二酸化炭素が排出**される。その量は、化石燃料燃焼の比ではない。他にも、インドネシアでは泥炭層が燃えて森林火災を引き起こすなど、プランテーション開発に起因する森林火災や、火災による煙害など、パーム油はさまざまな社会・環境問題のデパートだ。

#### 関連するプロジェクト

【東レとニットメーカーのミツカワ（福井県越前市）が、アフリカの砂漠を繊維の力で農地に変えるプロジェクトを推進している。即ち、砂漠やコンクリート上で植物を育てる土壌の代わりになる筒状の農業資材繊維「ロールプランター」を開発し、壮大な挑戦を続けている。ロールプランターは、東レの作る植物由来の繊維をミツカワの技術で編んだもので、培養土を入れて農作物を育てる。砂漠化の進行を食い止めることや、食糧問題の解消への貢献が期待されている】